



カケハシ・プロジェクト招へいプログラムの記録

対象：ジャパンボウル（米国・カナダ）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国及びカナダから高校生及び引率者 50 名が 2018 年 7 月 4 日～7 月 11 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：42 名

カナダ：8 名

【訪問地】

東京都（全員）、宮城県（25名）、長崎県（25名）

2. 日程

7/4（水）	【来日】	
7/5（木）	【オリエンテーション】	
	グループ A（宮城県）	グループ B（長崎県）
	東京都から宮城県へ 【学校交流】東北大学	【表敬】カナダ大使館（カナダ訪日団）／【視察】TEPIA 先端技術館（米国訪日団） 東京都から長崎県へ
7/6（金）	【視察】東北大学災害科学国際研究所 【学校交流】東北大学 【視察】石巻市復興まちづくり情報交流館 【ホームステイ対面式】	【視察】長崎原爆資料館／平和公園 【講義】被爆体験者講話 【学校交流】長崎県立諫早高等学校 【ホームステイ対面式】
7/7（土）	【ホームステイ】	【ホームステイ】
7/8（日）	【ホームステイ歓送会】 宮城県から東京都へ移動 【ワークショップ】	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ】 長崎県から東京都へ移動
7/9（月）	【表敬】高円宮妃殿下 【表敬】西村康稔内閣官房副長官	

	【視察】Honda ウェルカムプラザ青山 【レセプション】
7/10（火）	【視察】浅草寺 【交流】高円宮杯弁論大会運営大学生との交流（明治神宮，原宿） 【交流】JBSG（ジャパンボウル・サポーターズグループ） 交流会 （競技カルタの実演とワークショップ） 【報告会】
7/11（水）	【講義】アメリカンセンターJAPAN(米国訪日団)/ 【視察】TEPIA 先端技術館(カナダ訪日団) 【離日】

3. プログラム記録写真

全グループ（東京都）

	
7/9【表敬】高円宮妃殿下	7/9【表敬】西村康稔内閣官房副長官
	
7/10【交流】高円宮杯弁論大会運営大学生との交流（明治神宮，原宿）	7/10【交流】JBSG（ジャパンボウル・サポーターズグループ） 交流会

グループA（宮城県）

	
7/5【学校交流】東北大学	7/6【視察】東北大学災害科学国際研究所

	
7/6【視察】石巻市復興まちづくり情報交流館	7/7【ホームステイ】

グループB（長崎県）

	
7/6【視察】平和公園	7/6【講義】被爆体験者講話
	
7/6【学校交流】長崎県立諫早高等学校	7/8【ホームステイ歓送会】

4. 参加者の感想（抜粋）

グループA（訪問地：宮城県）

◆ 米国 学生

深刻な天災に際しての日本人の揺るぎない粘りは本当に印象的で、そしてまた、元気づけられるものでした。自然災害は世界中どこでも起こりますが、石巻が津波災害にあった時の日本のように、迅速に、賢明に、そして根気強く対応できた国を思いつきません。継続的な努力や支援が石巻の町と人々に向けられていることにも感動しました。世界の他の国々も、将来、災害が起きた時には、日本の経験、知恵、インスピレーションを謙虚に学んでほしいと思います。

◆ 米国 学生

東北大学を訪問して感じたことは、日本の大学は米国の学生にとって素晴らしいリソースであること、そして、それが残念ながらほとんど活用されていないということです。多くの日本の大学には外国語、特に英語での興味深いプログラムを提供しており、受講料は米国の同等のプログラムよりもずっと低く抑えられています。より多くの海外の学生が、高等教育の進路の選択肢の一つとして日本の大学を検討するようになることを期待しています。

グループB（訪問地：長崎県）

◆ カナダ 学生

諫早高等学校を訪問した日は人生で最高の日となりました。同校の学生はとても親切で、大歓迎を受けました。日本に関する様々な発表はどれも素晴らしく、日本の教育制度や高校生活がとても良く理解できました。3人の女子学生が案内してくれましたが、各教室に入るたびに、「Santi です」と紹介してくれ、皆が笑顔で手を振ってくれました。私も笑顔で手を振り、心が通じ合ったと感じました。話す言葉は違っても心を通わすことは簡単です。案内してくれた3人の女子学生とはインスタグラムを使い、これからもずっと交流を続けていきます。カナダと日本は親密な外交関係を維持していますが、自分も何らかの形で貢献していきたいです。

◆ 米国 学生

今回のプログラムの中で心に残ったのは長崎平和公園を訪れたことと、競技カルタを学んだことです。この2つは内容的にはかなり異なる側面を持ちますが、2つとも忘れられない経験となりました。今年に入ってから長崎平和公園のことを初めて聞き、是非訪れてみたいと思っていました。カケハシ・プロジェクトに参加することで、夢がかないました。日本は米国により甚大な被害を被ったという過去を乗り越えてきました。そして今、他の国を非難することなく核兵器の非人道性に対する認識を広め、核兵器廃絶を訴えています。そこには誰かに対する憎しみというものはありません。

競技カルタ体験では日本の伝統が現代においても若者にしっかりと受け継がれているということに驚きました。競技カルタは高い集中力の維持が必要な面白いゲームです。競技カルタに必要な高度なスキルは日本の文化そのものを表していると感じました。長崎平和公園訪問と競技カルタ体験を通じ日本のことが一層好きになりました。日本が常に前に進んできたように、自分も更なる高みを目指して努力したいと思います。一生に一度とも言えるような素晴らしい経験に心から感謝しています。

5. 受入れ側の感想

◆ ホストファミリー（グループA）

何にでも挑戦する生徒達でした。地元の大会では、鮎のつかみ取りにも挑戦していました。日本の民家に来て緊張の毎日だったと思いますが、全般的に日本語を話す方々で大変楽でした。日本の文化や生活に興味を持ってくれたように思います。言葉の壁がなかったので、家族みんなで会話を楽しめとても良かったです。

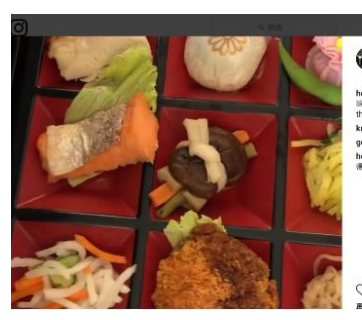
◆ 学校交流受入校先生（グループ B）

大多数の生徒が同年代の海外の学生と話すのは初めての経験であり、普段学習している英語をどのように使えばコミュニケーションが取れるのかと終始模索していました。当日、実際に交流が始まると、私が想定していたよりも生徒は自分たちから積極的に訪日団に話しかけており、中には、連絡先を交換するまで仲良く打ち解けたグループもありました。異なる価値観や背景を持った海外の学生と交流することで、海外の文化への興味・関心がさらに高まり、生徒たちは、興味・関心のあることに対して行動を起こすことの重要性をプログラムの中で実感したようでした。

◆ 交流会参加学生

今回、訪日団の学生の皆さんと共に、原宿散策や競技かるたの実演に立ち会えたことは、日本の様々な文化に触れ、自国への理解を深めるという意味でも大変意義深いものでした。また、訪日団学生がとても流暢に日本語を話していたことに大変驚かされました。カケハシ・プロジェクトに参加した 1 人として、これからも北米地域との友好関係に少しでも貢献していくため、異国の文化に積極的に触れようとする姿勢は見習っていきたいと思います。

6. 参加者の対外発信

 avonmelina01 • フォローする avonmelina01 Some amazing sights in Ishikawa yesterday! We got a lecture there as well. It was so informative. It was about the 2011 Tsunami. #kakehashi2018 いいね 14件	 helloiamstuart • フォローする helloiamstuart Get yourself a 弁当(べんと) like this with 紋(mon) with the Imperial Crest on it that you can take home. #kakehashi18 kraycoko Such a fancy bento! gavinhhgt Can I just get this at yoshimoya? helloiamstuart @gavinhhgt yes. Ask for their 巻(マキ)ってくださいスベシヤル いいね 79件
（グループ A）石巻についての発信（Instagram） 昨日は石巻で驚くべき場所をいくつか訪問しました。説明も聞いたのですが、それは本当に勉強になりました。2011 年の津波についてです。	（グループ A）食事についての発信（Instagram） 皇室の紋入で持ち帰りもできるお箸がついたこんなお弁当を試してみて。

 Charlie Liu @CharlieLiuAI... · 5分 ✓ Nagasaki peace park and atomic museum. Every time I see how people suffer from wars, this line of lyric appears in my head. 人は何故傷つけあって、争うのでしょうか。 -Euterpe (エウテルペ) #kakehashi #kakehashib2018 #JapanBowl 	 5 likes patissieremiyuki This was my first time in a Japanese high school. While in Nagasaki, we visited Isahaya High School. When I entered the classroom, they were all very welcoming. We learned about Japanese culture and about how important the churches were to Japan. This was an experience I will never forget. #kakehashi2018 #kakehashib2018 #jce #japanbowl
(グループ B) 長崎原爆資料館についての発信(Twitter) 戦争により罪のない人々が苦しむ姿を見るたびにこの言葉を思い出します。 人は何故傷つけあって、争うのでしょうか。	(グループ B) 学校交流についての発信(Instagram) 日本の高校に初訪問。長崎県立諫早高等学校に行きました。教室に入ったら、大歓迎されました。日本文化や長崎の教会の重要性を学びました。忘れられない経験となりました。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	Action Plan Adventures in Japan Blog - Everyone will contribute to the blog and post weekly Different kinds of posts - Everyday small discoveries findings - Informational content (a Youtube video on a specific topic ex: a video explaining some aspect of Japan or Japanese culture, about programs like Japan Bowl) If the blog gets good, we can make T-shirts and have other merchandise
アクション・プランの発表 (グループ A) 日本で気づいたこと、「おもてなし」「安全・信頼」「自然への敬意」「公共交通の便利さと定時運行」など全ての根底にあるものは「RESPECT」、敬意や尊敬の念だと考えた。そこで、帰国後は RESPECT についての意識を広め、日本で学んだことを生活の中に活かしていくことをアクション・プランとする。写真やビデオを動画などのメディアの形にまとめ、日本についてあらゆることを伝えるツールとする。また、主に日本について学びたい人を集めて、発表する機会を作る。	アクション・プランの発表 (グループ B) https://kakehashi2018.wordpress.com (ブログ) を開設する。団員全員が毎週様々な記事を書き、多くの人に読んでもらう。内容としては日本に関する発見や気づきの記事、日本に関する YouTube などのビデオ紹介、日本文化を学べるジャパnbowlのようなイベント情報の発信など。ブログの人气が出れば、関連グッズ(Tシャツなど)の販売も視野に入れている。長期的な活動としてブログを続けたい。また、団員の多くは今年で高校を卒業するが、母校を訪れ、ジャパnbowlに参加を予定している後輩にアドバイスを。高校生の団員はジャパnbowlの学生コーチとなり、後輩を支援する。各高校でジャパnbowlやカケハシ・プロジェクトについての情報を広めていく。